

作品を撮影し、鑑賞する

グループでテーマを複数個決め、制作に取り組む。テーマに必要な場所、道具を準備したら、タブレットを使って撮影する。それをプレゼンシートに張り付け、作品に名前をつける。

次時に、作品を全体で共有し、個人で鑑賞できるようにする。作品を自席で落ち着いて鑑賞することができる。



◀ 児童の作品
「湖の漢字」

＜第6学年 図工「ここから見ると」：日本文教出版＞

ICT活用のポイント

- ・図工の「ここから見ると」という題材は、一人一台タブレットに大変適したものである。グループで協力しながら、タブレットを使って奥行きを生かした作品づくりに取り組む姿見られた。
- ・プレゼンシートに張り付ける際に、児童の数名がトリミングをしていました。全体が見えないと、奥行きが感じれないので、注意の声掛けが必要である。



作品を撮影する様子
(動画：約15秒)



作品を鑑賞する様子
(動画：約15秒)

お気に入りのアート・カードを紹介しよう！

5年生図工の「カードを使って～アート・カードで～」で、自分のお気に入りのカードを「デジタルスクールノート」を使って、簡単なプレゼンテーションを作成しました。写真を撮影し、周りにお気に入りの理由を書き込むだけなのでタブレット操作が苦手な児童でも容易に作成することができました。

利点① プレゼンテーションを作成する基礎の力を養うことができます。

利点② データとして保存されるため学習が終わっても見返すことができます。

利点③ 他教科・他学年でも汎用的に取り入れられる内容です。


<第5学年図工「カードを使って」>

ICT活用の ポイント


作成に必要な作業は
・写真撮影・貼り付け
・文章の入力

以上の2点である。指導の際は、指導者が大型モニターなどにやり方を示すことで児童は十分理解することができる。



 作成している様子（32秒）



 発表している様子（29秒）

コマ撮りアニメーションを作ろう！

タブレットのカメラ機能でコマ撮りを行い、カメラロールで写真を順に表示していくとコマ撮りアニメーションになります。

利点① 失敗することがほぼありません。

利点② 写真を撮るだけなので、短時間で多くの作品を作ることができます。

ICT活用のポイント

- ・児童は、作成方法が分かれば様々なアイデア作品を作ることができるため、基本操作の習得には、練ゴムのコマ撮りアニメーションを作成するのがよい。

<第5学年 図工 「形が動く絵が動く」>



コマ撮りアニメーション (31秒)